

祈り

人類全体が地球的規模での大きな変化を経験している今、
世界中でたくさんの方が祈っています。
あなたが特別な宗教の信者や僧侶でなくとも、「祈り」には、大きな力があります。
また毎日、短い時間でも祈ることは、あなた自身の心をも安定させてくれるでしょう。

本来祈りとは、マインドレベルの望みの実現や特定の結果を得るためのものではなく
「感謝」するものです

今回のことでは、「今あるものに感謝する」という考えが広く浸透し
「不足」ではなく、「足りている」こと、同じ物事のネガティブな面よりポジティブな面に
目を向けて、多くの心ある人々が「感謝」し、祈っています。けれどもその一方で
「今日も 食べるものがあること 家族が無事であること
住む家があること 普通の生活ができること そして生きていることに 感謝します」
というような祈りをしながら、どこか違和感を持っている人も少なくありません。

なぜなら、この言葉のバックには、どうしても「私には、ある」「あの人たちには、無い」
「私は、持っている」「あの人は、持っていない」という「比較」が、ついて回るからです。
つまりこれは、マインドのレベル(小さな私)での「感謝」なんですね。
ですから、マインドの幻想を消し、競いや不安を無くすには、充分ではありますが
たとえば、今感謝しているもの(こと)が失われたら、途端に感謝できなくなりますし
「持っていない」方々と自分との心的な「隔たり」をつくってしまうことにもなります。
だからと言って、「祈り」を難しく考える必要はありません。
特定の宗教に属す必要もないし、唯一の正しい祈り方と言うものもありません。

物質的な世界においては、どんなに「無い」と見えることも、すべては「在りて在り」
満ち足りていて、今、私が、世界が、どんな状態にあっても、「機能する」→「適合す
る」→「存続する」という宇宙の循環の法則(神)は、滞りなく完璧に働いている。
そしてその力は、私たち一人ひとりの中にも、同じように完璧に働いている。

—— ということへの信頼とそこから湧き出る感謝を表わす
より大きな意識での「祈り」の言葉のひとつを御紹介しましょう。

祈り

暗い土の中から 種が芽を出します
風のにふれて 葉をひろげます
そして日の光をうけて ゆたかな実を結びます

そのように

心の種は 身体の中で芽を出し
魂の力は 世の中に向けて広がり
そして私たちは 霊性の光の中で
ゆたかな実を結ぶのです